ヨハネの福音書　第１９章

2012/11/20

文責：宮

※ローマ総督：ローマ帝国内の行政官。現代風に言えば、ローマ帝国が日本、各地域の自治を任せられたローマ総督が都道府県知事のようなもの。当時（紀元１世紀ごろ）、ローマ帝国内では各地域の文化が尊重され帝国統治は穏やかであったが、ユダヤ地域に関してはその文化の特異性ゆえ例外的に帝国統治は順調ではなく、ユダヤ地域のローマ総督ピラトと現地ユダヤ人の関係は良くなかった。

ユダヤ人

ローマ総督ピラト

～前回より～

父なる神の御心に従うままにしようとしつつもイエス自身の心細さや苦しみが垣間見えた19章

→20章では引き続きイエスやその他の人びとの心理に注目していく。

Q1.10節のピラトの「お前を釈放する権限も、十字架につける権限も、この私にあることを知らないのか」という発言、12節のピラトはイエスを釈放しようとしたという記述

　 →にもかかわらず自分が助かる道を断ったイエスの心境は？/なぜ自分で自分の首を絞めるような事をしたのか？（11節）

Q2.26節・27節ではイエスは自身の死後の援助を弟子（ヨハネ）に依頼するがそれはどんな心情から？

　 ⇔ヨハネ2章4節

Q3.28節「渇く」とはどういう意味？/この時イエスは何を思って「渇く」と言ったのか？（Cf.マタイ27章,マルコ15章,ルカ23章）

Q4.神を求めた経験